

官庁出願

特許願 2.

請

昭和49年6月3日

特許庁長官 斉藤英雄殿

1. 発明の名称 タソウカイテンエンノシンキアラカシノキ タソウエンシ クドウ
多層回転円板式油回収機の多層円板の駆動
ソウチ
装置

2. 発明者

住所 神奈川県川崎市多摩区百合ヶ丘3丁目9番3号

氏名 ウエ タ ヤス オ
植田 靖夫

住所 フジミシツルセニシ チヨウメバン ゴウ
埼玉県富士見市鶴瀬西2丁目9番141-303号

氏名 ワタ ナベ カズ オ
渡辺 和夫

住所 ムサシノシキチヨウケンタマチチヨウメバン ゴウ
東京都武蔵野市吉祥寺北町1丁目18番25号

氏名 ウエ タ コウ イチ
上田 浩一

3. 出願人

住所 ミタカシシシカワチヨウメバン ゴウ
東京都三鷹市新川6丁目38番1号

電話 0422-45-5171(代表)

氏名 ウシユシヨウケンシヤクシツケンヤコウシヨウノマ
運輸省船舶技術研究所長 濱田 昇

4. 添付書類の目録

- 1. 明細書
- 2. 図面
- 3. 出願審査請求書
- 4. 願渡証書

1通
1通
1通
1通

特許庁
昭和49.6.3

方式審査

明細書

1. 発明の名称

多層回転円板式油回収機の多層円板の駆動装置

2. 特許請求の範囲

ウレタンゴム等で加工したローラによる、多層円板を駆動する多層回転円板式油回収機の多層円板の駆動装置。

3. 発明の詳細な説明

回転円板式油回収機とは、連続回転する円板の一部を浮遊油中に没し、回転円板に付着した油を連続的に掻き取つて油を回収する装置である。回転円板を数多く使用するため、同時に数多くの円板を駆動する装置が必要である。従来の多層回転円板の駆動方式は、各円板を一軸に固定して回転させているか、周囲に歯型を成形した回転円板を歯車で駆動する方法がとられている。数多くの円板を同時に駆動するので、これらの方法をとると構造がかなり複雑である。これを簡単にしたものが本発明である。

本発明は、第1図、第2図に示すように一つの

①9 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 50-153355

④3 公開日 昭50.(1975) 12. 10

②1 特願昭 49-61790

②2 出願日 昭49.(1974) 6. 3

審査請求 有 (全2頁)

庁内整理番号

6825 33

⑤2 日本分類

72 C22

⑤1 Int. Cl?

B01D 17/00

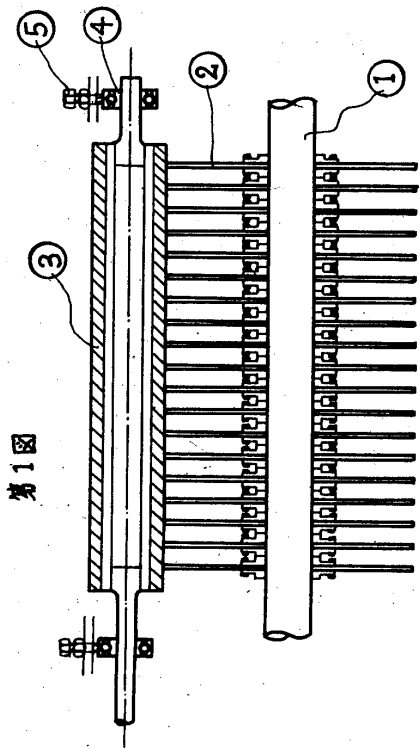
E02B 15/04

軸①に回転が自由にできるようにした回転円板②を、金属製の軸の周囲をウレタンゴム等で加工したローラ③で駆動する装置である。駆動ローラ、軸受④はネジ⑤で移動して押さえつけられるようにしてある。

この装置は工作、取り付けが簡単であり、しかも全円板をスリップすることなく駆動することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図に、この発明による多層回転円板の駆動装置の実施例の平面図を示し、第2図に、本駆動装置による実施例の側面図を示す。



第2図

